

子どもの社会的自立に向けての環境づくりは  
どうあったらよいか。  
—学校と地域社会の望ましい連携のあり方を求めて—

10月27日（水）午後7時～ 4分科会で協議

「未来の下諏訪教育を語る会」実行委員会では、少子高齢化と人口減少社会が進行する中、次代を担う子どもの社会的自立に向けて学校と地域社会が連携した教育環境づくりのあり方を求めて「参加・参画型の会」を開催しました。



およそ100名の皆様にお集まりいただき、松崎教育長の基調提案のあと「地域連携部会（ノース下諏訪ネットワーク・なぎがまコミュニティスクール）」「家庭教育連携部会」「学校支援部会」の各取り組みにおける具体的な発表を基に、4つの分科会に分かれて、活発な意見交換がなされました。

## 松崎教育長の基調提案(抜粋)

- 1 地域社会の一員としての自覚をもち、社会的に自立する姿とは
  - 自主：自分らしさや得意なことなどを自覚し発揮する子
  - 協調：関わる人たちと共に生きる喜びを実感する子
  - 創造：自ら課題を見出し、考え判断行動し、問題を解決する子
  - 実践：計画し、行動し、見返し、再び挑戦する子
- 2 「未来の下諏訪教育を語る会」3年間の成果
  - (1) 社会環境の変化の中で、家庭・学校では、子どもたちの「コミュニケーション力」「基礎学力や活用力」「体力や心の豊かさ」の向上を目指し、「社会性や人間関係力」「規範意識、耐性等」の育成に努めてまいりました。
  - (2) 生活環境・体験等の機会の変化の中で、地域では「次代を担う子どもの育成」「伝統文化の伝承」「連帯感の高揚」「諸行事・諸活動の充実」「地区防災への参画」など大切にしていまいりました。

このことを通し「地域の子は地域で育てる」をキーワードに、学校地域連携による「人材の育成」及び子どもたちが将来この町に住みたいと思えるような「魅力ある町・地域づくり」に向け、多くのご示唆をいただきました。
- 3 本日の新しい分科会推進に向けて

前年度までのように「学校の取組を町民に伝えご意見をいただく会」から「学校と連携・協働してくださっている町民の方にもお話しいただく会」とします。皆様からのご意見・ご提言をご期待申し上げます。

No.513

かおり高い  
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp

## 3年間の成果を踏まえ

### 第1分科会 地域連携部会

#### 分科会テーマ 「地域・保護者・学校の連携によって<sup>たくま</sup>逞しく生き抜く子どもたちを育てよう」 ～子どもたちの健やかな育ちのための有機的な連携のあり方について～

(1) 激動の世の中を生き抜いていく力を育むために

【小中学校では】 (小口下諏訪中学校校長)

- ・学ぶことに興味や関心をもって追究できる授業。課題解決のために互いに協力し話し合い、自分の考えを広げる授業。問いを見つけて習得したことを活用して解決したり、創造したりする授業を目指している。

【地域では】 (河西ノース下諏訪ネットワーク地域連携部長、小河原六区長持ち会会長)

- ・伝統をつないでいくことは難しくなっているが、1区の敬老会や下之原長持ちに参加する子どもたちは、真剣に取り組んでいた。企画の段階から一緒に取り組むと、能力を発揮できるのではないかと。積極的に子どもを地域につなげる働きかけをしていきたい。
- ・地区のPTAに声をかけたところ、主体的に花笠踊りに取り組むなど、小中高からお年寄りまで一緒に地域を盛り上げることができた。

(2) フリートークで話題になったこと

- ◆子どもの面倒を大人が見過ぎてしまう。子どもに大人がどのように関わるかが大事。
- ◆子どもに責任を与えながら、大人も一緒に育っていかねばならないと感じた。
- ◆学校と地域がもっと気楽に連絡をとりあいたい。
- ◆地域のこと、学校のことを知ってもらう機会を大事にしたい。



### 第2分科会 ～なぎがまコミュニティスクール(CS)の地域連携の取り組み～

2年目を迎える、なぎがまCSの地域連携の取り組みを、地域連携部長の一村幸正さんから発表していただいた。あわせて、総合的な学習の時間に地域防災について学習してきた下諏訪中学生のプレゼンを基に、『なぎがまコミュニティスクール』のあり方について、参加者の皆様から、様々なご意見やご要望をいただきました。

#### ◇参加者の皆様からの声

- ・地域で子どもを育てる意味が話の中で少し見えてきた。参加して良かった。



- ・少子高齢化の中で、地域と学校との連携を続けていくことの大切さと難しさを学ぶことができた。思い切って地域の活動を子どもに任せるといった姿勢も大切だと感じた。

- ・子どもたちが地域で活動することが当たり前になってきている。活動を安全・福祉の活動に展開することが今後の課題だと思う。

- ・下諏訪中学生による防災学習の発表は大変興味深かった。もしもの時のリーダーとなる人材に育ててほしい。

来年度も、地域とともにある学校を目指し、「なぎがまコミュニティスクール」の活動へのご意見やご要望をお聞きしながら、3年目の活動を地域の皆様とともに進めて参ります。

# 共に考えよう 未来の下諏訪教育

## 第3分科会 家庭教育連携部会

### 分科会テーマ 『めざせ!! 元気なしもすわっ子』の取り組みをステップとして

『めざせ!! 元気なしもすわっ子』（右ポスター）の事業は、子どもたちの自己教育力向上の一環として、親子・家庭で取り組む家庭生活の充実を期して、**6項目【①あいさつ ②家庭学習 ③読書 ④早寝・早起き・朝ごはん ⑤お手伝い ⑥メディアコントロール】**を大事な視点として家庭で取り組み始め、本年度で4年目となります。

今回、この取り組みについての児童生徒並びに保護者アンケート結果を基に、4小中学校PTA役員の方にその成果と課題を発表していただき、その後3つの分散会に分かれて、様々なご意見やご提言をいただきました。



（アンケート結果では）

- 『めざせ!! 元気なしもすわっ子』が活用されている→小学生55% 中学生20% 保護者40%
- 小中学生とも、「あいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」は70%以上ができているが、他は30%~60%となっており、特に中学生での「家庭学習」「読書」が40%弱である。
- 保護者は、「あいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」を大切と考え、実践している家庭が多いが、「家庭学習」「読書」「メディアコントロール」が30%~40%にとどまっている。

#### 《参加者からの提言（抜粋）》

- 親が子どもの鏡としてやることにより、子どもも自然とやるのでは？やらされている！じゃなく、自分からやる！ことで伸びていくと思う。子ども目線で一緒に考えていくことも大切だと思う。
- 『めざせ!! 元気なしもすわっ子』の活用について、項目の再考と目安の見直しが必要だと思います。子どもの実態に合わせて変えていくことで、「目標を達成できた」という実感を得られる子どもが増えるのではないかと。6項目の中から選択するという形式でもよいのではないかと。
- 小学校低学年については、友だちと外で遊ぶような時間が大切です。友だちとの遊びの中で社会性、人間関係、体力等、いろいろ身につくので、このようなことにも重点を置いて考えていくことが大切だと思います。
- 来場された方々は、ある意味教育・地域活動に積極的な方が多いのではと思われる。共有された課題解決の方策について、より町民全体にどのように浸透させていくかがこれからの課題のように思います。

#### 《第3分科会について（抜粋）》

- 我が家と同じ様子をお聞きただけでほっとすることもありました。また、家族で話し合ってみることが多くありました。とてもよいお話が聞けたこと、私自身ありがたく思いました。
- いろいろな立場の方が集まって、この取り組みに対する意見を言うのはとても大切なことで、学びがあった。さまざまな家庭環境下で育つ子どもたち、取り組み方も達成度もそれぞれだろう。子どもの未来のために、こんなに多くの方が心を砕いていることは素晴らしい。



#### 《語る会を受けて、今後の方向》

- ①『めざせ!! 元気なしもすわっ子』を更に有効に活用していくために、項目内容や活用の仕方について見直しを行っていききたい。
- ②「大事な下諏訪の子どもたちを育てていくんだ」という思いを共有して、家庭・学校・地域が互いに連携し、支え合いながら取り組んでいけるよう、引き続き啓発を行っていききたい。

## 3年間の成果を踏まえ

### 第4分科会 学校支援（ノース下諏訪ネットワーク・なぎがまコミュニティスクール合同） 分科会テーマ 「学校支援によって、地域と学校の互惠関係を築こう」

発足2年目を迎えた下諏訪町コミュニティスクール（CS）の学校支援に焦点をあて、その活動の成果や課題を、各CSの運営委員長、学校支援部長、ボランティアから発表し、その後、ノース下諏訪ネットワーク（社中・北小）、なぎがまCS（下中・南小）の2つの分散会に分かれてテーマに沿って協議しました。

#### 《分科会での意見・感想用紙から》

##### ○児童生徒にとって

（ボランティアの方、教員から）

- ・学校に地域から支援に入るとは、子どもにとって家族のように慣れている人以外の方との交流経験になり、そこから子どもの積極性が生まれてきているように思う。
- ・地域の人と関わることは生徒の社会性を育てる上で大変大事だと感じている。いろいろな地域の人から教わり、どんな大人からも話を聞ける子を育てたい。
- ・子どもは共同作業で積極的に。実物を見ることも大切。

##### ○ボランティアの皆さんにとって

- ・子どもが少しでも達成感をもってくれるように毎回楽しく北小に行っている。子どもと接していると元気がでる。
- ・中学校の生徒とどのように関わればよいか始めはドキドキしたが、実際には楽しく活動ができた。子どもたちから元気をもらっている。

##### ○これからの展望について

- ・CSの活動は充実してきているが、まだ住民には十分知られていないかも。子どもは地域の宝。地域と学校がタ



#### 下諏訪町コミュニティスクールとは何か

- ① これまでの組織を活用する（信州型コミュニティスクール）  
「学校評議員会」と「学校支援地域本部」の機能を土台に
- ② 小中合同のコミュニティスクールにする（小中一貫型）  
小中一貫教育の実現もめざし小中合同の組織
- ③ 「学校支援部」「地域連携部」「広報部」の3つの部が活躍  
未来の下諏訪町を担う若者の育成（共通の願い）のため
- ④ 町教育委員会の全面的なバックアップ  
運営費が確保されており、予算のかかる事業も可能に



#### 3 クラブ活動支援



「工業コマクラブ」  
「旗クラブ」  
「将棋クラブ」  
7つのクラブで、地域講師に指導をお願いしています。

#### 4 「寺子屋やしろ」(補習支援)



中学生から小学生へも広がりを見せる「寺子屋やしろ」

ッグを組めるよう、アンテナを広げ、仕事をリタイアした人も参加できるようにしたい。

・社中区域、下中区域とも生徒数が少なくなっているので、ぜひ一緒にできるような活動があるといい。意図的に作っていかねばならないと思う。

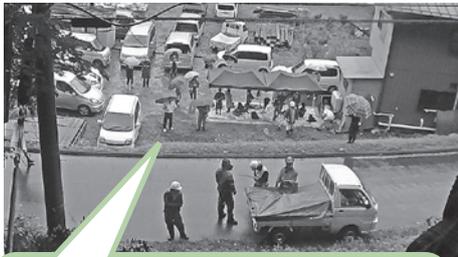
・学校と地域との連携を皆さんが熱意を持って意見交換し深い議論ができており、有意義な会。今後も続けてほしい。また、子どもたちと直接対話できる機会も取ったらどうか。

#### 《語る会を受けて、今後の学校支援の方向》

- (1) 学校では「学校職員が異動しても継続できる」という良さを生かせるよう、継続することが望ましい。学校支援活動は、年度当初の学校教育活動計画の中に位置づけておくようにしたい。
- (2) 地域に向けて「学校支援活動は、学校・児童生徒にとって大きなプラス」ということ、また地域の方に対する児童生徒・職員の感謝の思いを、広報誌等を活用して、絶え間なく発信し続けていくようにしたい。

# 昭和61年から数えて6回目の北小おんぼしら！ 「力を合わせておねがいだあ！よいさ！よいさ！よいさ！」

御柱年に合わせて、地域をあげて全校で取り組む「北小おんぼしら」。伐採から山出し、里曳き、建て御柱の様子まで、子どもたちの活躍の姿いっぱいの写真で構成してみました。



雨に負けないぐらい大きな声で  
木遣りを鳴くぞ



倒れるぞ！



立派な柱だね



おんぼしら集会で盛り上がりよう

木遣り保存会の方に  
手伝ってもらったのでいい  
おんべができそう！



おんぼしら給食だって！  
海苔巻きにして食べる  
みたい。おいしそう！

6年のみなさん、  
協力一致でお願いだ！



木遣りリーダーだから  
練習がんばるぞ！

北の子、ご無事で、お願いだ！  
よいさ！よいさ！よいさ！

柱に乗るって楽しいね



いよいよ開会式



柱の先頭だぞ！  
イエーイ！





6年だって柱に乗り  
たいんだ！

北小5年、心を一つに  
お願いだ！



梃子棒の使い方、  
上手だね！

さあ、木落としだ！  
がんばりまーす！



北小のトンネルだ！  
校庭まであと少し！



お昼休みに花笠音頭  
拍手喝采、ありがとう！

やったあ！くす玉  
割れた！きれい！

もう少しで柱が立つぞ！  
木遣りで力を合わせよう！



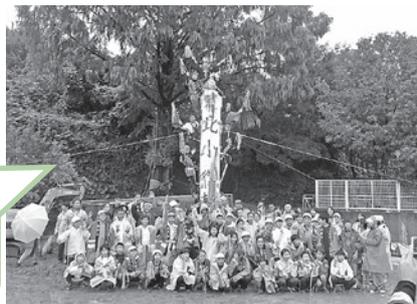
おんばしらが建ったぞ！  
みんな、ありがとう！  
高いなあ

先生！がんばれ！  
かっこいい！



よいとまけ！よいとまけ！  
よいとまけ！

みんな、朝からがんばったね！  
柱の前で記念写真、  
ハイ、ポーズ



北小おんばしらは、  
こうして無事に終了  
しました。ありがとう  
ございました。

### オードリーにはなれないけれど



#### あほうどり（朗読劇）

毎週火曜日 7時30分、仕事を終えた40代から70代までの9人が文化センターの音楽室に集まってくる。まずは軽く体を動かしながら発声練習。それから台本を開く。

今は宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』を今年春の公演を目指して練習している。

「ゴーシュは何歳だと思う？」

「ねこはどんな猫？」

「楽長の性格は？」容赦なく演出の関島さんの声が飛ぶ。本には書いてない行間を表現しようと体を動かしながら模索する。

公民館の朗読劇講座から始めて10年。まだまだオードリー・ヘップバーンには及ばないけれど、あほうどりは脳の老化と闘って朗読劇を作り上げているのである。

さて、この紹介に関心を持ったあなた、ぜひあほうどりの公演を見に来て、一緒に朗読劇をやってみませんか？

※入会ご希望の方は、直接会場にお越しいただくか、公民館の窓口でお尋ねください。

### 混声の歌声をとどけて二十余年

#### しもすわ混声合唱団

「山よ お前のふところは 山の男のふるさとよ・・・」清水 脩：作詞作曲『山に祈る』の最初の一節である。総勢三十数名の団員が皆、伴奏の笠原先生の弾いてくださる旋律に集中して、音程を聴き取り声に出す。初見のままに歌ったり階名唱をしたりと、やり方は様々に少しずつ繰り返していくことで、メロディーが繋がり旋律が流れ曲の骨格が見えてくる。

指揮棒を振られるのは、この合唱団の創設時から指導してくださっている保坂俊正先生。曲の骨格が見えてくるその先、その先に立たれて、団員をユーモアで、また時には嘆き節も交えて、叱咤し鼓舞し、そして認めてくださりながら、少しずつ高みへと連れて行かれる。

しもすわ混声合唱団は結成以来二十数年、隔年の定期演奏会とクリスマスコンサート、町民音楽祭などの発表の舞台を目指して、文化センターで毎週月曜日に練習を重ねています。次回の定演は、冒頭の合唱組曲「山に祈る」の他、原語によるモーツァルト宗教曲、そしてポピュラーソングと幅広く構え、大勢の皆さまに合唱の楽しさハーモニーの美しさをお届けしようと、団員一同大張り切りです。

合唱の醍醐味は、曲を創り上げていく一瞬一瞬にある！そんな思いを抱き始めています。只今団員募集中です。曲を創り上げていく一瞬一瞬の思いを共に味わいませんか。（連絡先☎降旗：27-8716）



## \* 図書館からのお知らせ \*

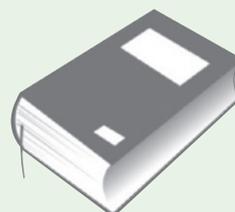
### ☆☆☆☆ 図書館システム更新による利用制限のお知らせ ☆☆☆☆

6市町村の図書館ネットワークは4月から新しいシステムに変わります。ネット上から貸出延長を自分で出来たり、スマホ対応のホームページが出来たり便利になります。予約の本の流れもスムーズになります。システムの入替えのため大変申し訳ありませんが2月～3月は利用制限があります。ご理解ご協力をお願いいたします。

- ・ホームページからの予約休止 2月1日～3月31日
- ・ホームページからの蔵書検索の停止 3月3日～3月31日
- ・他図書館からの取り寄せ休止 2月1日～3月31日
- ・休館 3月17日(金)～3月31日(金)

(新聞の閲覧・インターネット閲覧・学習席は利用できます。)

連絡先 下諏訪町立図書館 0266-27-5555

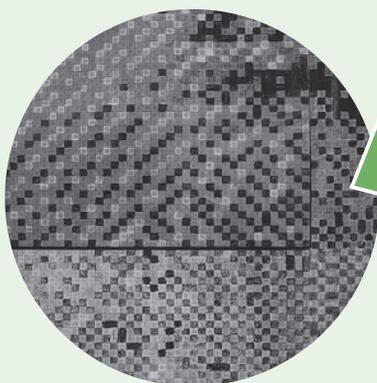


下諏訪中学校なぎがま祭  
ステージバック「百花繚乱」より



ステージ杯、迫力の画面

左下部分の拡大図



全校生徒が一人一枚分担し、数ミリのマス目を一つ一つ色鉛筆で塗り分け、完成させたものです。

ほのぼの

ちかどで

「寒っ！」一日はそんな一言で始まり、「今日も寒いですね」が挨拶替わりになっていますが、それでも暦の上ではもう春です。皆さんはどの季節が好きですか？  
私は夏が大好きです。しかし、仕事柄夏は繁忙期であつという間に過ぎ去ってしまいます。そうこうしているうちに冬！私は生まれてから半世紀にもなるうちとしてこのに、ちつとも諏訪の寒さに慣れません。この厳しい寒さは私から元気をこっそり奪っていきます。

真冬の澄み切った夜空に明るく瞬く星を眺めると心がスツと落ち着き幸せな気持ちになります。が、同時に翌朝の放射冷却による厳しい寒さを想像してしまいます。「明日も寒いのかあ…」厳寒の二月、どうせ寒いなら御神渡を見せて欲しい！そんなことを思いながらじつとしています。

でも、この寒さがあるからこそ春がありがたく、夏に向けて気持ちが盛り上がるのでしょうね。もう少しの辛抱！自分に言い聞かせる毎日です。春よ、来い！

(林 美奈)

